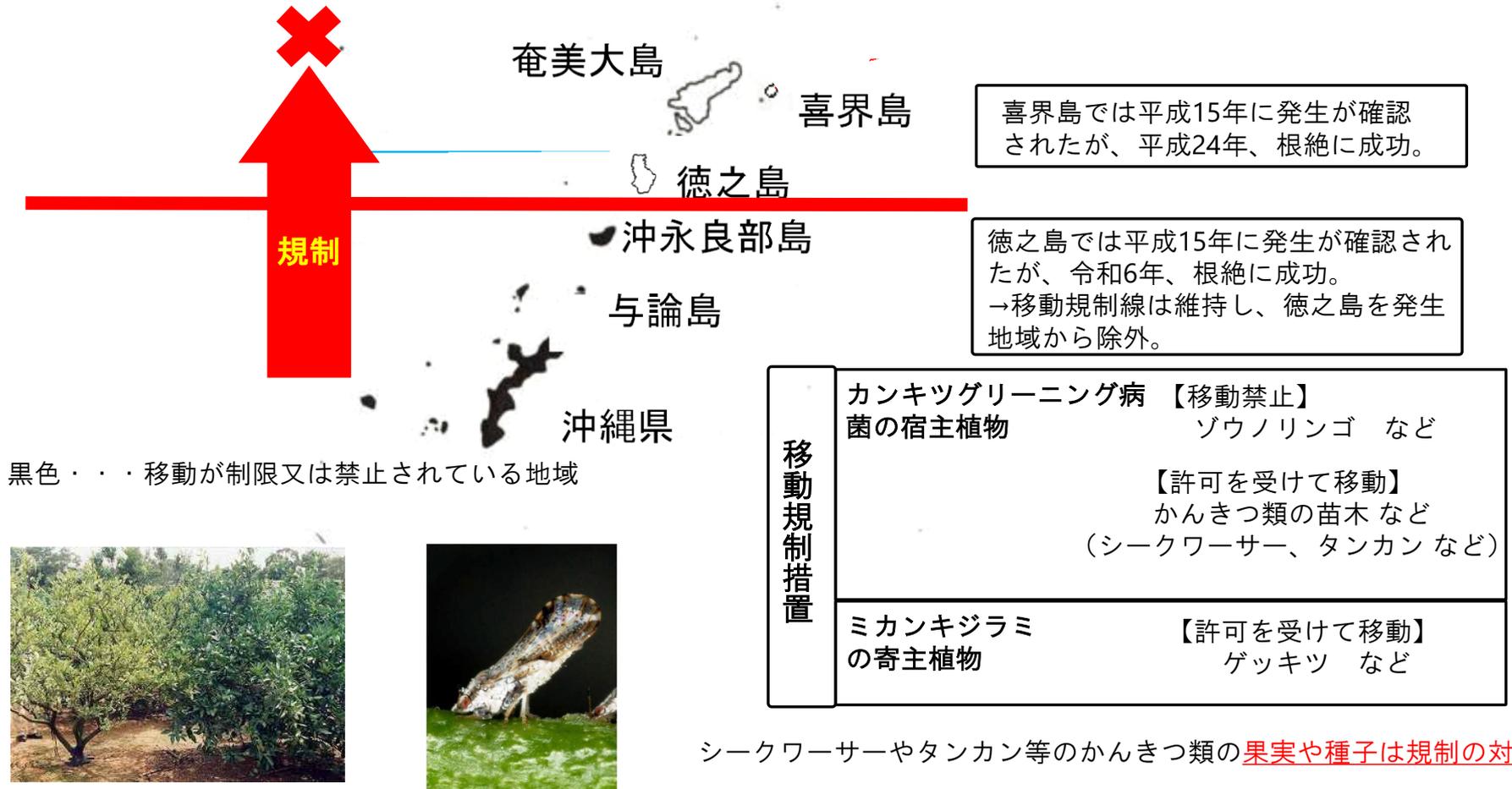


# 7-4-(5). カンキツグリーニング病への対応（移動規制の例）

カンキツグリーニング病の発生地域の拡大を防止するため、本病の発生が確認されている沖縄県及び鹿児島県大島郡（沖永良部島、与論島）において、かんきつ類の苗木等の移動規制措置を実施するとともに、感染した樹の伐採等の防除を実施。



カンキツグリーニング病感染樹

ミカンキジラミ

写真左：罹病樹、写真右：健全樹

シークワーサーやタンカン等のかんきつ類の果実や種子は規制の対象外

## 7-4-(6). クビアカツヤカミキリへの対応

- クビアカツヤカミキリは、幼虫がサクラやモモ等の樹の幹の中に入り込み、内部を食害する。
- 平成24年に愛知県で国内で初めて確認されて以降、令和7年3月末までに15都府県で確認。
- 発生当初は、公園や街路樹のサクラでの被害が確認されていたが、発生範囲が徐々に拡大し、近年では、ウメ、モモ等の果樹園でも被害が確認されている。
- 農林水産省では、生態や防除方法等に関する試験研究、防除に必要な農薬の適用拡大などを推進。
- 平成30年1月、環境省は本虫を特定外来生物に指定。
- 毎年、関係者省庁連絡会議を開催。防除対策等に関する情報を共有し、関係者の連携強化を図っている。

### 主な取り組み

#### 1. 発生状況調査及び防除対策

消費・安全対策交付金により、地方公共団体、農業者団体等が実施する発生状況調査や発生園地における農薬散布、ネット被覆、伐採等の防除対策等を支援。

#### 2. 防除技術の開発

イノベーション創出強化事業（H30～R3年度、R4～R7年度）により、（国研）森林総合研究所及び農研機構が中心となり、生態の解明、効果的な防除対策の開発等の試験研究を実施。

関係機関と連携し、農薬登録を推進。（令和7年3月末時点で19作物140剤が登録。）

#### 3. 関係省庁連絡会議の開催

毎年、クビアカツヤカミキリを含む外来カミキリムシ類に対し今後の対策と課題について協議するため、発生都道府県、環境省、林野庁、農水省等からなる会議を開催。



成虫



幼虫と被害樹

# 8-1. 総合防除の推進

## 病害虫防除を巡る状況の変化

- ・ 温暖化等の気候変動の影響により既存の病害虫の発生量、発生地域、発生時期が変化（スクミリンゴガイ等）
  - ・ 化学農薬への依存により薬剤抵抗性が出現（リンゴ黒星病等）
- ⇒ 従来の防除体系では防除が困難になるケースが数多く報告されている

## みどりの食料システム戦略の策定

- ・ 生産力の向上と農業の持続性の両立
- ⇒ 化学農薬使用量（リスク換算）について、2030年までに10%、2050年までに50%低減

## 今後の防除対策

- ・ 病害虫の被害の軽減を図りつつ、持続的な生産を確保するためには、「予防、予察」に重点を置いた総合防除の推進が必要
- ⇒ 地域の実情に応じた総合防除体系の確立に向けた実証を支援
- ⇒ 指導者の育成に必要な研修、講習等への参加・開催を支援
- ⇒ 農業者による適切な総合防除の実践を図るための総合防除実践マニュアルの整備 等

## 総合防除の考え方

総合防除は、予防、判断、防除の取組を組み合わせ、化学農薬の使用量を必要最低限に抑えつつ、経済的な被害が生じるレベル以下に病害虫の発生を抑制する方法。

### 予 防

病害虫が発生しにくい生産条件の整備

- ・ 健全種苗の使用
- ・ 病害虫の発生源（作物残渣など）の除去
- ・ 抵抗性品種の導入
- ・ 土壌の排水性改善
- ・ 土壌診断に基づく適正な施肥管理
- ・ 土づくり（堆肥、緑肥の活用）
- ・ 輪作・間作・混作
- ・ 土着天敵を活用した予防
- ・ 防虫ネット、粘着板の設置
- ・ 土壌や培地の消毒
- ・ 化学農薬による予防（種子処理、育苗箱施用など） 等

### 判 断

防除要否及びタイミングの判断

- ・ 発生予察情報※の活用
- ・ 病害虫や天敵の発生状況の観察 等

※ 発生予察情報とは、国、都道府県が、病害虫の発生状況を調査し、農業者に提供する情報



### 防 除

多様な防除方法を活用した防除

<多様な防除資材の活用>

- ・ 天敵
- ・ 紫外線ライト 等

<適切な使用方法による防除>

- ・ 化学農薬のローテーション散布
- ・ ドローン等を活用したピンポイント防除
- ・ 飛散防止ノズルの使用 等

<その他の物理的防除>

- ・ 被害を受けた葉、果実等の除去
- ・ 機械除草 等

# (参考) 総合防除の推進 (イメージ)

## スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)

- ✓ 近年の暖冬の影響により越冬数が増え、従来の化学農薬による防除で抑えきれず、被害が拡大。
- ✓ 2021年は33府県、2022年は35府県で発生を確認。

## リンゴ黒星病 (薬剤耐性菌)

- ✓ 化学農薬に依存した防除により、一部の地域において複数の殺菌剤に対する薬剤耐性菌が発生。
- ✓ りんご主産県において、2015年頃から薬剤耐性菌の発生を確認。

化学農薬のみに依存しない総合防除の推進が不可欠

## 総合防除の内容

### 【予防】

- ・冬季の耕うん
- ・冬季の水路の泥上げ
- ・収穫後 (秋季)、又は、苗移植前 (春季) の石灰窒素施用
- ・取水口や排水口への網の設置
- ・食害を受けにくい中苗又は成苗の移植

### 【判断・防除】

- ・ほ場観察により発生密度が一定以上の場合、以下の防除を実施
  - －成貝の捕殺、卵塊の除去
  - －水深 4 cm 以下の浅水管理 (移植後の 3 週間)
  - －適期の薬剤散布 等



耕うんにより地表に現れた貝



冬期耕うんによる破碎

※写真は太田市HPより引用

## 総合防除の内容

### 【予防】

- ・春先の越冬落葉のほ場外への持出し、又は、すき込み等による処分
- ・健全な苗木、穂木等の利用



幼果の病斑

※写真は山形県のHPより引用

### 【判断・防除】

- ・発生予察やほ場観察に基づき、以下の防除を実施
  - －病斑部 (枝・葉・果実) を速やかに除去し、ほ場周辺に残さないように適切に処分
  - －適期の薬剤散布
  - －化学農薬の使用時は、同一系統の薬剤の連続使用を避け、薬剤耐性菌の発達を回避

# 8-2. 総合防除を推進する仕組み

## 「総合防除」を推進するための基本的な指針、計画の策定

- ✓ 指定有害動植物の総合防除を推進するため、農林水産大臣が基本的な指針を定め、都道府県知事が基本指針を踏まえた計画を定める。
- ✓ 都道府県知事が、当該計画において、農業者が遵守すべき事項を定めることができるよう措置。

